

農繁期 レポート

令和7年 7月号

栄ファーム

オーナー
産地
水田面積
保証量
形態品種

栄運輸工業株式会社
鳥取県日野郡日南町
18.4アール
玄米828kg
特別栽培コシヒカリ



生産者 三上 惇二さん

中干しは好天すぎて、乾きすぎ無いように早めに水を入れ始めました。7月は雨がとても少なく水路の水が減ってきましたが、広大な山々のお陰もあり何とか水不足ぎりぎりでも持ちこたえています。穂が出てきましたので、より水管理やカメムシ防除のタイミングに注意していきます。

7月の作業内容等

1. 中干作業の切り上げ

中干作業はやりすぎると、土に大きなヒビが入り、根が切れたりしてかえって稲を痛める結果になります。そうなる前に適度に切り上げる必要があります。見極めが肝心になります。



中干を切り下げる直前の田んぼ

2. 水管理

中干後は、一定の間隔で水を入れる(灌水)・水を抜く(断水)作業を繰り返すことで土に酸素を供給し、稲の成長を促します。水が不足している場合はポンプで少し離れた水源から供給する場合もあります。



ポンプで水を供給する田んぼ

3. 幼穂形成期

分げつから、穂の形成に生育が切り替わる時期です。穂肥(穂が出る直前に行う追肥)を与えるタイミングでもあります。穂肥には、稔実する粳を増加させ収量を増加させる目的があります。



場所によっては出穂しかけているところも

4. 除草と防除作業

天気が良いと稲も育っていますが、同時に雑草の勢いも増えています。それと同時に、いもち病(カビの一種)やカメムシ(穂を吸引する害虫)の防除も大切な作業になります。



除草作業で整えられた畔(あぜ)